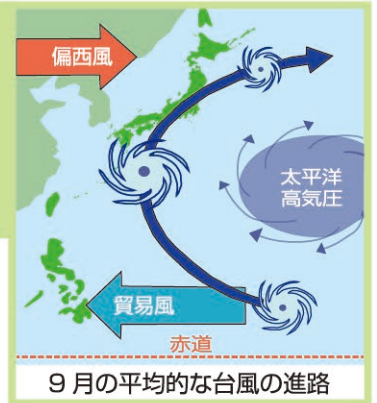


風水害について

台風

台風は太平洋の南の海で発生する熱帯低気圧で、中心付近の最大風速が17m以上の空気の渦を「台風」といい、気圧(ヘクトパスカル(hpa))が低い程風雨が強くなります。東風が吹いている低緯度では、西へ移動し太平洋高気圧のまわりを北上すると強い西風(偏西風)で速度を上げ北東へ進むなど、上空の風や気圧配置の影響で移動します。近年海水温が上昇傾向にあり、多数の台風や巨大台風の接近・上陸により大きな被害が発生しています、台風情報に注意し災害に備えましょう。



台風進路予報では、中心円は、風速25m/s以上の暴風域、外側の円は風速15m/s以上の強風域で現在の台風を表します。今後台風が中心が入る可能性のある範囲、予報円と、暴風域に入る可能性のある範囲、暴風警戒域を表しています。

風の強さと影響

1秒間の風速	災害発生状況
平均風速10~15メートル/秒	風に向かって歩きにくい
平均風速15~20メートル/秒	風に向かって歩くことができない
平均風速20~25メートル/秒	しっかり身体を確保していないと転倒する
平均風速25~30メートル/秒	立ってられない。樹木が倒れる
平均風速30~35メートル/秒	養生の不十分な仮設足場が崩落する
平均風速35~40メートル/秒	電柱や街灯で倒れるものがある
平均風速40メートル/秒 以上	倒壊する家がある

台風の大きさと階級分け

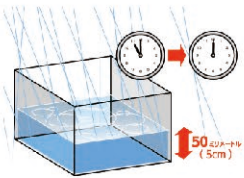
階級	風速15メートル/秒以上の半径
大型(大きい)	500キロメートル以上 800キロメートル未満
超大型(非常に大きい)	800キロメートル以上

台風の強さと階級分け

階級	最大風速
強い	33メートル/秒以上~44メートル/秒未満
非常に強い	44メートル/秒以上~54メートル/秒未満
猛烈な	54メートル/秒以上

1時間に50ミリの雨ってどんな雨? ※雨の降り方と強さは9頁参照

~ 1時間に降る雨が30ミリを超えると災害の危険性が一気に高まります~



「1時間に50ミリの雨」というのは、雨水が別の場所に流れず、そのままたまる状態で、「1時間に雨水が50ミリメートルの高さまでたまる」規模の雨です。



「たった50ミリ」と思われるかもしれませんが、1平方メートルあたり50リットルになります。傘をひらいたときの面積が概ね1平方メートルなので、1時間傘をさしていると、傘には牛乳パック50本分の雨があたることになります。

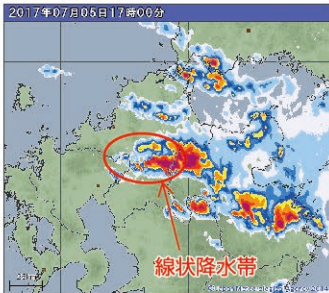


まわりの雨水があつまると……

出典:気象庁

集中豪雨・線状降水帯

活発な雨雲のラインが停滞
2017年7月6日17時00分

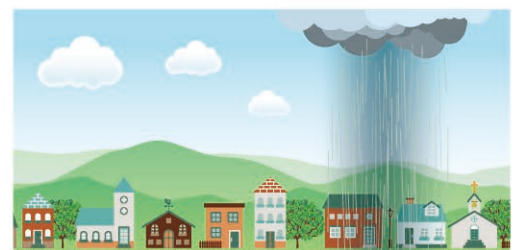


気象庁提供

集中豪雨とは、積乱雲が同じ場所で次々と発生・発達を繰り返すことで数時間にわたり強く降り、100ミリから数百ミリの雨量をもたらす雨で、重大な土砂災害や家屋浸水等の災害を引き起こします。また近年は、次々と発生する発達した雨雲(積乱雲)が列をなし、組織化した積乱雲群が、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞により作られる、線状にのびた長さ50~300km程度、幅20~50km程度の強い降雨域を線状降水帯といい、大きな災害の要因となる集中豪雨が引き起こされていますので防災情報に注意し早めの行動に心掛けましょう。

局地的大雨

単独の積乱雲が発達することによって起き、大雨や洪水の注意報・警報が発表される気象状態でなくても、急な強い雨のため河川や水路等が短時間に増水するなど、急激な状況変化により重大な事故を引き起こすことがあります。



風水害対策

落雷や竜巻に備える

発達した積乱雲によって、雷や竜巻、集中豪雨が発生することがあります。屋外で行動する場合は、雷注意報や竜巻注意報が発表されていないかなど、事前に気象情報を確認しましょう。

雷が鳴ったら...

雷鳴が聞こえたらすぐ避難

- ▶ 雷鳴が遠くても雷雲はすぐに近づいてきます。屋外にいる場合は安全な場所に避難しましょう。

建物の中や自動車へ避難

- ▶ 建物や、自動車など屋根付きの乗りものに避難しましょう。
- ▶ 雨宿りで木の下に入るのは危険です。

木や電柱から4m以上離れる

- ▶ 側撃雷のおそれがあるので、木や電柱から4m以上離れましょう。
- ▶ 近くに避難する場所が無い場合は、姿勢を低くしましょう。

竜巻が起こったら...

頑丈な建物の中へ避難

- ▶ 避難するときは飛ばされた看板などの飛来物に注意しましょう。
- ▶ 避難できない場合は、物陰やくぼみに身をふせましょう。
- ▶ 車庫・物置・プレハブ(仮設建築物)への避難は危険です。

屋内でも窓や壁から離れる

- ▶ 家の中心部に近い、窓のない部屋に移動しましょう。
- ▶ 窓やカーテンを閉めましょう。
- ▶ 頑丈な机の下に入り、身を守りましょう。

気象情報を有効に使う!

外出前に雷や竜巻注意報などの気象情報をパソコンやスマートフォンで(気象庁HP)確認しよう。



屋外活動する時は、スマートフォンをつかって最新の気象状況をニュースキャストで雷や竜巻の状況や予報を確認しましょう。

積乱雲などの画像を確認できたらすぐに建物などに避難しましょう。

高解像度ニュースキャスト
気象庁ホームページ(PC、スマートフォン)
<http://www.jma.go.jp/jp/highresorad/>



風水害から避難

～日頃より、災害対処や避難対策など家族で話し合っておきましょう～

1最新情報を入手する

最新の災害情報の入手に努めましょう。



2避難の呼びけに注意

市などからの避難の呼びかけに注意しましょう。



3避難勧告・指示に従う

避難勧告などに従い、速やかに避難を開始して下さい。



4避難前の確認

避難前には必ずガスや電気、火種を消したかを確認しましょう。



5安全な避難

浸水時は長い棒で確認しながら歩き、側溝や水路に注意しましょう。



6避難に遅れたら

近くの丈夫な建物の高層階に避難し、助けを求めて下さい。



避難時の心得

避難場所を確認

避難する前に、避難場所と道順の確認をしましょう。



避難は複数人、徒歩で!

一人での避難は避けましょう。車での避難が有効な場合もあります。



運動靴で避難!

長靴は中に水が入り歩き難くなり、危険です。運動靴で避難しましょう。



台風や集中豪雨の時は、強風や激しい雨により、家屋への浸水、河川の氾濫、土砂災害など様々な被害が想定されます。風水害に備えて日頃の安全対策をしっかりとっておきましょう。

屋内での対策

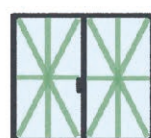
外出しない

外は倒木などの危険があります。外にいる場合は、近くの建物へ。



窓から離れる

飛来物で窓が割れないよう対策し、窓からも離れましょう。



2階へ避難

浸水の危険がある場合、2階など高い場所へ避難しましょう。



屋外での対策

普段から、瓦やアンテナの補強、簡易な建物が飛ばされないよう家回りの点検修理するなど、台風対策をしておきましょう。